

台風16号に対する農作物の技術対策

平成26年9月18日
技術支援課普及指導室

台風16号は18日12時現在、フィリピンの東に位置し、時速25kmで北西に進路をとっています。しかし、21日には進路を北東に変え、発達しながら日本に向かうと予想され、23日朝には日本の東に達する見込みです。接近に伴い県内でも局地的に激しい雨と強風が予想されますので、農作物や施設管理について対策の徹底を図りましょう。

1 共通事項

- (1) 事故防止の観点から、台風接近に伴うほ場の見回りは早めに行い、通過後は大雨や強風が治まってから行うこと。
- (2) 局地的な大雨によるほ場の冠水対策として、速やかな排水ができるように事前に備えること。これまで冠浸水したことのある地域については、前例を参考として重点的な対応を図ること。
- (3) 河川及び用水の増水並びに土砂災害の恐れがあるところでは、作業安全を第一としつつ、適切に対応すること。
- (4) 薬剤散布にあたっては、農薬ラベルに記載されている使用基準や注意事項を必ず守り、正しく使用すること。

2 普通作物

(1) 水 稲

ア 事前対策

- ・既に成熟期となっており、収穫可能な場合は、台風接近前に収穫する。
- ・大雨に対応できるよう、用排水路の点検・整備を行う。
- ・風雨による影響を軽減させるため、台風接近前に湛水状態としておくが、既に倒伏しているほ場においては、排水対策を優先する。

イ 事後対策

- ・台風通過後の高温・乾燥・強風時には湛水管理とする。
- ・浸水や冠水の被害を受けたほ場は、速やかに排水を図るとともに、土砂等が流入した場合は速やかに排出する。
- ・倒伏した場合は、速やかに排水し、成熟状況を見て、早めに収穫する。成熟期まで期間がある場合は、できる限り株を引き起こし、水面や田面に穂が接触しないようにする。収穫期に、穂発芽等の品質低下が認められる場合は、刈り分けを行う。

(2) 大 豆

ア 事前対策

- ・水田では用排水路の点検・整備を行い、ほ場への水や土砂の流入を防止する。また、排水溝の整備や畔を切るなど排水対策を講じておく。

イ 事後対策

- ・冠水及び滞水したほ場は、速やかに排水対策を講じ、根の機能回復を図る。

3 工芸作物

(1) コンニャク

ア 事前対策

- ・土砂の流出入防止のために排水溝の手直しを行うとともに、必要に応じて土のうなどを設置する。
- ・腐敗病や葉枯病等の罹病株は、あらかじめ取り除いておく。

イ 事後対策

- ・滞水や土砂の流入があった場合は、速やかに排水対策を講じる。
- ・強風により倒伏、小葉柄の反転が発生した場合は、出来るだけ早く適用農薬を散布する。
- ・腐敗病、葉枯病の発生が認められる場合は、計画的な薬剤散布を行う。

(2) タラノキ

ア 事前対策

- ・倒伏が予想される風当たりの強い場合は、あらかじめ杭やロープ等で固定する。
- ・土砂の流出入防止のために排水溝の手直しを行うとともに、必要に応じて土のうなどを設置する。
- ・そうか病の病葉はあらかじめ取り除き処分する。

イ 事後対策

- ・強風による倒伏は、新梢が屈曲しないうちに出来るだけ早めに手直しする。
- ・滞水や土砂の流入があった場合は、速やかに排水対策を講じる。
- ・そうか病の発生が認められる場合は、早めに適用薬剤を散布する。

4 野菜

(1) 事前対策

- ア ハウスの被覆資材の傷んでいる箇所は、風雨が吹き込むので修復しておく。また、ゆるんでいるマイカー線の張り直しや基礎の杭等の補強を行う。
- イ 雨水がたまりやすい場合は、事前に排水溝を掘っておく。また、ハウス内に雨水が流入しないよう土のう積み等の防水対策を図る。
- ウ 露地野菜の支柱や誘引線、ほ場まわりの防風網はあらかじめ補強しておく。
- エ 果菜類等で収穫期に達しているものはやや早めに収穫し、被害を最小限に抑える。

(2) 事後対策

- ア ハウス施設やほ場に浸水した場合は、早期に排水溝を掘り排水に努める。
- イ ハウスや防風網を点検して、損傷箇所があれば早めに補修する。
- ウ 茎葉の損傷、湿度の上昇により、病害の発生が助長されるので適用農薬を散布する。特に、使用時期の収穫前日数に注意する。
- エ 天候回復後、草勢回復のために追肥や葉面散布を行う。
- オ 排水後土壌表面が固くしまっている場合は、土壌が乾燥しほ場に入ることが可能になったら、浅く中耕する。
- カ 果菜類で被害を受けた果実は摘果し、着果負担を軽くさせて草勢回復を図る。
- キ 露地ナスなどの倒伏した果菜類の株は可能な限り起こすとともに、支柱や誘引線への誘引を行う。またネギが倒伏した場合も丁寧に起こし、軟白部が曲がるのを防ぐ。
- ク 育苗中や生育中の果菜類などでは、台風通過後に天気が急激に回復すると、ハウス内が高温となるので、天窓やサイド換気を速やかに行う。また遮光ネットを利用し、強光による葉焼けを防止する。

ケ 収穫した野菜は、傷みがないか良く確認しながら調製作業を行い、流通中に発生する荷傷みや腐敗の発生を防ぐ。

5 果 樹

(1) 事前対策

ア 多目的防災網や防風ネットの張りを点検し、緩んでいるワイヤーや紐は張り直してネットがずれたり、飛ばされないように補強する。また、ネットが破れている部分は補修する。

イ トレリスは隅柱、中柱の横ぶれ、架線の張り等を点検し、必要に応じ締め直す。

ウ ブドウ等、雨除けビニールが被覆してある場合は、飛ばされないように補強するか、場合によってはビニールを取り外す。

エ 収穫期を迎えている果実は、事前に収穫を完了する。

オ 幼木やわい性台リングゴ樹は、支柱や添え木を点検し、不備な場合は支柱や紐を取り替えるなどの補強をする。また、成り枝（結果枝）は台風襲来の直前に支柱や吊り紐を外して風になびくようにする。

カ 高接ぎした樹では、接いだ部分から折れやすいので添え木で保護する。

キ 園内に水が溜まらないように排水溝を掘る等、早期に園外に排水できるよう十分な対策を行う。

(2) 事後対策

ア 果実のすり傷、葉の裂傷等から病害発生のおそれがある場合は、速やかに適用薬剤を散布する。なお、薬剤散布にあたっては使用基準を厳守する。

イ 浸水・滞水している園では、速やかに排水溝を掘る等して排水に努める。

ウ 倒伏や傾いた樹は、回復可能なものは出来るだけ早く起こし、盛土、支柱で固定し、地下部とのバランスをとるために適宜枝の切り詰めを行う。

エ 枝が裂けた場合は、針金、ボルト等で固定する。回復不能な場合は切り落とし、切り口は塗布剤で保護する。

オ 枝の損傷や落葉が甚だしい樹では、果実肥大や品質が低下するので再度着果数の見直しを行う。

カ 落葉が激しい場合は、幹や太枝に石灰乳等の白塗剤を塗布し、日焼けを防止する。

キ 樹勢回復のための追肥は、被害直後には行わず、礼肥の時期に樹勢に応じて施用する。

6 花 き

(1) 事前対策

ア 湿害の発生しやすいほ場では、周囲に排水溝を設け、速やかに排水できるようにしておく。また、ハウス内に雨水が流入しないように、必要に応じて土のう積み等の防水対策を図る。

イ ハウスの被覆資材の傷んでいる箇所は、風雨が吹き込むので修復しておく。また、ゆるんでいるマイカー線の張り直しや基礎の杭等の補強を行う。

ウ 倒伏しやすいキク等の切り花類では、十分に土寄せを行うとともに、ネットや支柱を補強しておく。

(2) 事後対策

ア 冠水、浸水したほ場では、速やかな排水に努めるとともに、肥培管理を的確に行い生育の回復に努める。

イ 茎葉に付着した土砂は動力噴霧機等で洗い流し、生育促進を図る。

- ウ 切り花類等で株元が土砂で埋まって深植え状態になったものは、早期に土砂を取り除き天候の回復を待って浅く中耕する。
- エ 切り花類の倒伏したものは、できるだけ早く起こし、茎や花穂の曲がりを防ぐ。
- オ 枝物類・切り花類では、強風によって折損した茎葉の整理と薬剤散布を的確に行い、病害の発生を防止する。
- カ 被覆資材、支柱等栽培施設の点検・修復を行う。キクなどの電照施設においては、速やかに作動状況の点検を行い、電照処理等が確実に行われるよう確認する。

7 畜産

(1) 飼料作物

ア 事前対策

降雨により、草地や飼料畑に水や土砂が流入する恐れがある場合は、防水や排水対策を実施する。

飼料イネについては水稻の項を参照。

イ 事後対策

(ア) 飼料用トウモロコシ

- ・ 水田に栽培している場合は、排水対策が重要となる。降雨のためほ場に滞水している場合は、速やかに側溝を設けて排水を行い、湿害による生育不良を最小限に食い止める。
- ・ 倒伏及び茎の損傷等が著しく回復が期待できない場合は、青刈り利用またはサイレージ利用とする。
- ・ 倒伏したものを青刈り利用する場合は、飼料給与に注意を払う。若刈りのものを一度に多量給与する事は避け、乾草等を併用しながら給与量を調節する。また、サイレージとして詰め込む場合は、発酵品質改善のために乳酸菌、糖蜜、ふすま等を添加して品質向上に努める。刈り取りに際しては、土砂等の夾雑物の混入を極力避ける。

(イ) ソルガム

- ・ 平坦地等の水田に栽培している場合は、排水対策を徹底する。ほ場が滞水した場合は、側溝を設けて速やかに排水する。
- ・ 倒伏については、耐倒伏性が強い品種であれば回復が期待できるが、茎が完全に折れている場合は、早めの刈り取り利用を心掛ける。

(ウ) 牧草類

台風の風による被害は比較的少ないものと考えられるが、生育が進み草丈が伸びているものは倒伏が心配される。この場合は速やかに刈り取りを行い、品質を見ながら利用する。

(エ) 飼料イネ

- ・ 水稻の項を参照。
- ・ 倒伏した場合、サイレージとしての品質が落ちるので、ほ場の状態を確認しながら収穫を行う。収穫は、土砂の混入を避けるため高刈りとし、乳酸菌等を添加し良質なサイレージ調製を行う。

(2) 畜舎及び付属施設等

ア 事前対策

- (ア) 畜舎の風雨被害を防止するため、屋根や窓、入り口の点検を行い、必要があれば補修や補強等を実施する。雨や風が畜舎内に吹き込まないように戸締まりを行う。
- (イ) 堆肥舎やハウスかく拌処理施設への風雨被害を防止するため、施設の事前点検を

実施し、窓や入り口は戸締まりを行う。雨水の施設内流入や尿汚水が流出しないよう施設及び堆肥の管理を行う。

(ウ) 飼料庫、農業機械・器具格納庫

風雨被害を防止するため点検を行い、必要があれば補修や補強を実施する。飼料、農業機械・器具は雨にさらされないよう管理する。

イ 事後対策

(ア) 雨が畜舎内に吹き込んだ場合は、敷料等の交換を行って畜舎内を乾燥状態に保つ。

(イ) 飼料養分の低下した飼料作物を給与する場合にあたっては、栄養価、嗜好性にも配慮し、家畜の生産性が低下しないように注意する。

8 養蚕

(1) 事前対策

ア 簡易ハウス等は補強を行い、台風被害を未然に防ぐ。

(2) 事後対策

ア 浸水、冠水の被害を受けた場合は、速やかに排水を図るとともに、病害虫の発生に注意して防除に努める。

イ 桑葉が損傷した場合は、葉質が悪化するので貯桑管理を厳重にし、給桑回数を増やす。

ウ 飼育室・上蔭室は、通風換気に注意して適正環境を保つ。